

死ぬる數より

生れる者が多い

昨年は百万近く増加

帝國の人口動態統計

内閣統計局で調査中であつた昨年度中の帝國內地における人口動態の調査は七月二十六日の官報を以て公表されたその概要は左の如くである。

大正十五年昭和元年日本帝國人口動態

統計概要

(一)婚姻 婚姻件數は五十萬二千八百四十七件人口に對する割合は千に付八・三一件で昨年より件數において一萬八千五百九十一件率において〇・四二件を減少してゐる。

(二)離婚 離婚件數は五萬百十九件人口千に對する割合は〇・八三件であつて前年より件數千五

百六十八件率〇・〇四件を減じて居る、また婚姻千に對する離婚の割合は九九・七で前年の九九・一に較べて〇・六の増加である。

(三)出生 總數二百十萬四千四百五人中男百八萬千七百九十三人女百二萬二千六百一十一人男女不詳一人であつて總數において一萬八千三百十四人を増加して居る人口千に對する出生の割合は三四・七七で前年に較べると〇・一五低いまた男女の割合は女一〇〇に付男一〇五・八で前年の一〇三・五から見ると男の割合二・三を増加して居る。

(四)死産 死産の總數は十二萬四千三十八で内男は六萬七千五百六十二女五萬六千三十六男女

不詳三百四十である總數においては前年より三百六十五減少した人口千に對する割合は二・〇五であつて出生及死産即ち分娩總數の五分六厘に當り兩性の割合は女一〇〇に付男一二〇・四に當つてゐる。

(五)死亡 總數百十六萬七百三十四人で内男五十九萬七千二百九十二人女五十六萬三千四百三十五人男女不詳七人であつて總數において前年より四萬九千九百七十二人を減少した、これは既往二十餘年間に未だ曾て見ざる低率である歐米諸國最近の數字に較べるとスペインがわが國よりやゝ高く外は何れもわが國より遙に低い。

自然増加 死亡に對する出生の超過即ち人口自然増加は九十四萬三千六百七十一人であるがこれに大正十五年昭和元年の屈洩れてあつて將來届出らるべき數を從來の數字から推計してその出生超過を見積るときは優に百萬を超えるであらう、そ

して右増加を從來の最高であつた前年の八十七萬五千三百八十五人に較べると尙六萬八千餘多く人口千に對する割合は一五・五九で前年の一四・六五に較べると〇・九四高い、我國人口の自然増加數は今日まで大體に増加の傾向をたどつて來た、歐洲諸國の最近の自然増加率はオランダが人口千に付一四・五で我國の率にやゝ近いが他は何れも遙かにわが國より低い。

今秋上野に開く

兒童生活展覽會

十月九日から三十一日まで

——東京博物館の別館に

惠まれぬ都會の兒童達のためにその日常生活を明るくし保健教育兩方面から兒童の資質向上に努めやうと文部省では來る十月九日から同月三十一